

令和6年度 静岡市協働パイロット事業
こもれびカフェ in あさはた緑地（仮称）
事業報告書

一般社団法人グリーンパークあさはた

目 次

- 1.事業の背景と目的
- 2.事業の概要
- 3.プログラム①先輩コーディネーター相談会
- 4.プログラム②こもれびコモンズカフェ in あさはた緑地①
- 5.プログラム③こもれびコモンズカフェ in あさはた緑地②
- 6.事業の成果
- 7.次年度に向けて

1.事業の背景と目的

1-1 事業の背景

近年、法改正などにより、全国的に公園や緑地といった公共スペースの在り方を再構築する動きが加速しており、受け身のサービス享受ではなく、能動的に場づくりに関わり、主体的に公共を担う市民が集うことで公共空間の持続可能な運営を目指す試みが各地で起きています。

静岡では私たちが市内初の指定管理による公園の管理運営事業として「あさはた緑地交流広場」の管理運営を担っており、その大きな方向性として「消費されない公園」、「作る側になれる公園」を目指し、地域内外の多様な方々との連携や、来園者が自然と公園づくりに関わる工夫などを試みてきました。過去 3 年間で一定の成果は見られたものの、より主体的に公園づくりに参画してもらう仲間づくりの必要性を感じており、また、同時にあさはた緑地で培った考え方やノウハウも参考にして、他の公園や地域でも生かしてもらう仕組みづくりを行いたいと考えました。

1-2 緑地政策課の課題テーマ

テーマ	みどり(公園・緑地)を活かしたまちづくり人材の育成支援事業
現 状	本市では、みどり(公園・緑地)を地域の価値を高める重要な資産として捉え、新たな価値の創出や社会課題解決に取り組む活動を市民協働により進めていきたいと考えています。 一方、令和 3 年度緑の基本計画改定基礎調査では、みどりのまちづくり活動に「参加している」「今後 参加してみたい」人の割合は回答者の約 3 割と低い状態にあります。
目指す姿	みどりに関する知識・技術・熱意がある人材(以下、「みどりの専門人材」という。)やその活動の場が増えることで、みどりの多様な機能を活かしたまちづくり活動の実現やみどりの専門人材のネットワーク化が進み、社会課題解決の場としてみどりがその役割を発揮している姿を目指しています。
解決すべき課題	市民のやりたいという思いに寄り添い、活動の立ち上げや持続可能な運営を支援できる伴走者(以下、「みどりのコーディネーター」という。)の存在が求められます。みどりのコーディネーターの持つノウハウをみどりの専門人材となりうる市民が学ぶことができる機会の創出が求められます。

2.事業の概要

静岡市の現状としてみどりのまちづくりへの関心が、統計上も関係者の実感値としてもまだ薄いことから、課題テーマに直接取り組む事業を行う前段階として、市民が公共空間に能動的に関わろうと思える、気運の醸成から始める必要があると考え、2年間の計画を立て、1年目の事業として以下のプログラムを実施しました。

2-1 先輩コーディネーター相談会（全1回）

アドバイザー2名に加え、公共空間の活用経験のある有識者である先輩コーディネーターを4名お招きし、公共を自分ごととして捉えて公共空間を活用できる人材に求められる要素やその人材を育成するために必要なことなどについて意見を伺いました。また、それぞれ活動の先行事例についても紹介いただき、その経験から導かれるみどりのコーディネーター像についての議論を深めました。



2-2 こもればこモンズカフェ in あさはた緑地（全2回）

各回一般募集とし、自由で心理的安全性が保たれた場を創り、そこでのゆるやかな交流を通じ、公園に対する願いや関わりの可能性について参加者に語っていただきました。



2-3 人材養成研修パイロット版の立案

上記 2 つのプログラムで収集されたコーディネーターの要件や、公園・みどり活用に関する一般市民の声などから、2 年目に施行する人材養成講座のカリキュラムを策定しました。当事業の成果として資料を別添します。

2-4 実施体制

受託団体である一般社団法人グリーンパークあさはたが静岡市役所緑地政策課と日常的に連携、意見交換しつつ、アドバイザーに木村智子氏、山本由加氏の 2 名を迎えて専門的な知見・経験をインプットいただきながら事業を進めました。

2-5 実施スケジュール

日付	イベント	打ち合わせ
7/4		@市役所 契約内容、役割分担、方針確認
7/12		@あさはた緑地 先輩コーディネーター相談会打ち合わせ
7/18	先輩コーディネーター相談会	
7/22		@市役所 先輩コーディネーター相談会振り返り
8/11	こもれびコモンズカフェ①	@あさはた緑地 こもコモカフェ①振り返り反省会
10/12	こもれびコモンズカフェ②	
10/25		@市役所こもれびコモンズカフェ②振り返り 研修案構想打ち合わせ
1/28		@市役所 進捗確認・継続意向確認
2/19		@市役所 研修案打ち合わせ

担当課とは定期的にミーティングを行い、事業の進捗状況や方向性について常に共有してきました。



3.プログラム①先輩コーディネーター相談会

日時：令和6年7月18日 9:30~12:00

場所：あさはた緑地センターハウス会議室2



会場設定として、いかに堅苦しい会議体の形から遠ざけ、自由闊達な言葉を引き出せるかに重きを置いた。結果として、会議室の備品としてあった畳を採用し、クッションを追加することで靴を脱いでリラックスした雰囲気を作り出すことができました。また、お菓子と、あさはた緑地内で栽培したレモンガラスのお茶を振る舞ったことで、一段と和やかな場づくりができました。

本来はその後に実施予定の「こもれびコモンズカフェ」と同様の形式で屋外のこもれびエリアで開催したかったが、酷暑に配慮し屋内開催としました。

参加者：10 名（敬称略）

§ アドバイザー

- ・ 木村智子 有限会社スマイルプラス代表
- ・ 山本由加 tecowork、静岡市市民活動促進協議会副会長、静岡市社会教育委員会委員



§ ゲスト（先輩コーディネーター）

- ・ 阪口瀬理奈 ふじのくに ICT 人材育成プロデューサー
- ・ 杉山浩太 匠宿館長(指定管理者:株式会社創造舎)
- ・ 松尾憲宏 magnet-design 代表 デザイナー
- ・ 土肥潤也 一般社団法人トリナス代表理事、NPO 法人わかもののまち事務局長



§ 主催者

- ・ 曾根大樹 静岡市緑地政策課計画係
- ・ 山崎雄治 静岡市緑地政策課公園活用係
- ・ 田中雄基 静岡市市民自治推進課
- ・ 木下聡 一般社団法人グリーンパークあさはた代表理事



内容

§ キーワードに関するフレーズ出し



§ 出たフレーズを見ながらフリートーク



§キーワードに関するフレーズ出し

キーワード	回 答
始めるきっかけ	好き、とりあえず提案してみる、とりあえず誘ってみる、 困ったと相談された時、苦情からスタート、願いがある時
誘いたい人	来てくれる人、顔が目浮かぶ人、コチラに関心を示してくれる人、 良い意味で理解できない人
1 st STEP 初めにやること	つぶやく、相手が望むことを知る、小さいことから頼む、 ゆるくつながる（LINE グループとか）、傾聴まずひと通り聞く、 やりたいと言い続ける、オープンにする、こちらもリスクを負う、 主体性を預ける
やらないこと	自分がやらない、管理しない、理念をたくさん掲げない、 トレンドに乗りすぎる、イベント、ヒマすぎる人と関わりすぎない、 その気のなさそうな人を無理やり誘わない、想いが見えない、 想いと違うこと、キャパを超えること、コンセプトと違うこと
ゆずれないこと	意思決定を共有する、ちがいをあきらかに、みんな笑顔、身銭を切る、 他でやってない、参加者が楽しい、 ビジネスとそうでないものと混ざるけど意図的に整理しておく、 楽しんで関わり続ける仕組み、かっこよくやる、「人」、 人だけじゃなく地球も環境も生きものも大切、 とりあえずうたがう、適度に放置する、相手も自由・自分も自由、 なるべくパブリックに（独占は×）、持続させようと思わない

§出たフレーズを見ながらフリートーク

やらない→「イベント」について

場そのものの価値を高めるにはイベントしすぎない方がよい（スタバはスタバであることが重要）。ハレの日の演出よりもケの日のデザインの方が重要である。

主催はしないが持ち込みイベントを歓迎する。そのことが、場に対するオーナーシップを抱かせるきっかけになる。

運営側の意識づけ

参加に際し、有料か無償かボランティアなのかどうか、役割が明確な方がよい。

ボランティアという名称を変えるだけで印象が変わる（先行事例：シモキタ園芸部）

※人には「消費者的人格」と「受贈者の人格」（言い換えると Taker と Giver）があり、どちらの人格を刺激するかのアプローチのデザイン。

クレーマーは潜在的な仲間

少なからず関心を持ってきていて、自身の考えもある方なので、まずは話を最後までじっくり聞いてあげて、その先どうしたいのかを一緒に考えたりすることで、協力者になってくれる例は結構よくある。行政ではそこまでできないのでコーディネーターが入ってくるとありがたい。顔の見える存在とコミュニケーションをとることが大事。

※組織運営のフレームワーク「成功する組織の循環モデル」によれば、短期的な成果主義ではなく、長期的な成功は、関係の質、思考の質、行動の質、結果の質という4つの質が相互に関連し合って生まれる。つい成果のみに視点が行きがちだけれど、最初の挨拶等による関係の質の向上がないと次のフェーズには進めないという考え方。

意思決定について

人は自分で決めることに幸せを感じるという性質もあり、与えられた役割をこなすこととは反対に、決めるプロセスに参加してもらうことも重要

時間軸の話

中長期的に人が育つ、まちが変わる、社会が変容することを生み出せかどうか、そういう視点で事業を計画できるか（評価できるか）。

コーディネーターについて

自分で何かやりたい、という人は自分の舞台にしていまいがちなのでコーディネーターには向かない。相談され、それを一定の解決に導ける人柄と素養が大事。相談員をする課題が俯瞰的に見えるので受ける側にとっても良い学びになる。

自身もプロジェクトを回している、あるいは実施したことがある実践経験が必要。相談者側の気持ちがある程度汲める。

4.プログラム②こもれびコモンズカフェ in あさはた緑地①

日時：令和6年8月11日 10:00~12:00

場所：あさはた緑地センターハウス会議室1・2

参加：10名+アドバイザー+主催（静岡市、グリーンパークあさはた）

内容：木村氏によるインプット→グループワーク①みんなのモヤモヤ共有

木村氏による事例紹介→グループワーク②みどりを使ったモヤモヤ解消案

当初は、屋外の実施も検討し椅子なども準備していたが、酷暑による参加者の負担を考慮して屋内開催としました。



また、アドバイザーの木村智子さんは事情によりオンライン参加となり、資料を紙芝居形式で現地でめくりつつ、画面から開設してくださいました。

様々な参加者都合を想定し、椅子だけでなく、たたみスペースも設置しておいたことで、お子様連れの参加者も子どもたちと一緒に参加していただきました。



グループワークでは「えんたくん」という円形のテーブルを使い、それぞれの膝をテーブルの脚がわりにすることで、物理的にも心理的にも距離を縮めて話してもらいました。



グループでの発表ではそれぞれに個性的な意見が出され、畳のチーム発表では子どもたちも大活躍してくれました。



主にグループワーク②で出てきたコメント

- ・突発的にできたコミュニティで即行動できる場所でありたい
- ・住んでいる場所の文化が合わないときの避難場所であってほしい。
- ・新しいコミュニティができる場所。
- ・公園で人の交流が生まれにくいのはなんでだろう
- ・オープンな場所。まち自体が自由な場所オープンな場所で、使い方自由🌟と思っていた。だから、公園も勝手に作れると思っていたけど、そうではなかったことにびっくり！
- ・見える化。情報のオープン化。ここであれやってるらしいね～って言っている人がたくさんいるほうが良い。
- ・公園でみんな当たり前前に挨拶する雰囲気。 またね～って手を振り合える関係性。
- ・朝と夕方と夜の活用
- ・ペット、保護犬、ペット防災、保護犬の譲渡会
- ・婚活イベント、公園ブライダル
- ・星空観察会→園内宿泊
- ・ビアガーデン、夕暮れコンサート
- ・子どものあそび場のイメージだが、大人も楽しめる空間にしたい
- ・公園を自由に使えるイメージがない、それぞれの常識の押し付け合い、対話が必要
- ・ふるさとと思える公園

実施後に参加者に記入いただいたアンケートについてはスキャンデータをそのまま添付資料とします。

5.プログラム③こもれびコモンズカフェ in あさはた緑地②

日時：令和6年10月19日 10:00~12:00

場所：あさはた緑地ふれあいの水辺こもれびエリア

参加：10名＋アドバイザー＋主催（静岡市、グリーンパークあさはた）

内容：木村氏によるインプット→グループワーク①みんなのモヤモヤ共有

木村氏による事例紹介→グループワーク②みどりを使ったモヤモヤ解消案

今回は念願のこもれびエリアで開催できました。



今回は畳に代わって広めのビニールシートを敷きました。

グループワークは前回同様「えんたくん」を使ってお話しいただきました。



今回はアドバイザーの木村さんも現地参加くださり、前回使った紙芝居で参加者にお話ししてくださいました。最後にみんなでモモンズの「C」のポーズで集合写真を撮りました。



主にグループワーク②で出てきたコメント

- ・ みんなでコミュニティガーデン（ひとりひとり小さなところから）
 - 食へのアクセス → 子ども食堂
 - 耕作放棄地
- ・ 庭を持たない人もみどりを体験できる
（コト・モノ・情報の集積と発信拠点としての公園）
 - 情報共有会、苗木の配布、コンポストも配布して使い方講座も
- ・ 花植えツアー
- ・ 雑草にも名札をつけて食べ方を紹介
- ・ 虫に触れる機会を増やす
- ・ 公園で朝ごはんを食べる
- ・ 小さい魚を捕まえる
- ・ 自然体験させたいけど、水道とトイレは欲しい

実施後に参加者に記入いただいたアンケートについてはスキャンデータをそのまま添付資料とします。

6.事業の成果

・様々な方々からの言葉を集める

各プログラム参加者の方々からなるべく自由に思ったこと、考えていることなどを話していただける「場」の設定の配慮を行い、それぞれの報告の項目内ですでに記載の通り、多様なコメントをいただくことができました。

・人材研養成修案

前項の集められた言葉を反芻しながら、将来的な制度化の足がかりとなることを意図して策定しました。添付資料として提出します。

・参加者の反応

こもれびコモンズカフェは対話によって言葉を引き出すことが主目的でしたが、2回のこもれびコモンズカフェの参加者の中で、公園運営に携わる方が地域の方々との意見交換の際にえんたくんを活用して同じような対話の場作りを実践してくださったり、市内の公園の一部をなんとかしたいという思いのあった方々が実際に活動を開始したり、別の公園でイベントをされていた方が同様のイベントをあさはた緑地でも企画してくださったりと、すでに多くのみどりの活用を促すことができました。



7.次年度に向けて

パイロット事業としては2年目継続申請させていただき、提出した人材養成研修案を実施する意向です。並行して、同事業内で2年目もこもればいコモンズカフェを2回開催することで、育成と裾野の拡大を両面で展開していきます。

また、パイロット事業継続の場合も4月～6月のみどりが輝く季節が未契約のエアポケット期間になってしまうため、自主事業として4月12日にこもればいコモンズカフェを1回実施する予定です。

こもればい 4. 12 SAT コモンズカフェ

in あさはた緑地



みどり豊かな公園のスペースに集まって、
まち、公園、みどりなどをキーワードにゆったりとおしゃべりしてみませんか？

日 時	4月12日(土) 14:00～16:00 / 雨天決行・荒天中止
会 場	あさはた緑地 本店のこもればいエリア イベントスペース(公園内) (雨天時は案内)
定 員	30名 (先着順) 申込確認はQRコードがらうぞ
料 金	無料 (おやつ/飲み物あり・マイカップ持参下さい)
主 催	一般社団法人グリーンパークあさはた
協賛	あさはた緑地管理事務所 034-265-6601

▼申込はこちら▼

